

「平成25年度 新入生宿泊研修」

1 年次部会 助手：大島泰子

4月26日、27日の一泊二日の日程で、新入生宿泊研修が県立玉城青少年の家で行われました。「新入生と教員が生活体験を共有することで、学生間、学生教員間の相互理解を深め、学び合う関係の基盤をつくる」ことが目的のこの研修は、今年度が初の試みです。1年生81名、3年生8名、看大ゼミナール履修者3名、そして教員36名の計128名という大人数での参加でした。

1日目は開会式から始まり、ウォークラリーのフィールドビンゴ、バーベキュー、キャンプファイヤーを囲んでの歌や踊りとフォークダンス、ロールケーキにろうそくとクラッカーで祝った誕生会、ナイトウォークラリー。二日目はドッジボール大会に閉会式という、1年生、3年生、そして学生部長をはじめとした教員が企画した趣向を凝らしたたくさんのスケジュールでした。学生、教員ともに熱気あふれる豊かな時間を楽しみ、親睦を深めました。

今年は例年に比べると少し気温が低めのお天気でしたがお天気に恵まれました。海を望む小高い玉城の緑は陽の光を受けて青々としており、新入生の看護の基盤づくりとなる4年間のスタートを祝福しているようにも感じられました。



サークル活動紹介

キラリサークル

3 年次：知花真弓

性・命の達人キラリサークル(通称キラリ)は、4月9日に、「子宮(しきゅう)の日」と題して、今年初めて「子宮の日パネル展示」を教育管理棟1階ロビーで(4月2日~4月15日の期間)実施しました。若者に増え続けている子宮頸がんについて「子宮頸がんは検診とワクチンによって予防できる唯一のがんという現実を知って、自分のこととして行動してもらいたい」ことが目的です。子宮頸がんは女性特有のがんとしては、乳がんに次いで罹患率が高く、特に20~30代のがんでは第1位となっています【図1】。



子宮は、妊娠・出産に直接関わる大切な身体の部分です。20~30代の女性で増加傾向にあることはとても悲しい事です。20代になると子宮がん検診の案内が届きますが、検診を受ける女性は少ないのが現状です(2010年沖縄県子宮頸がん受診率32.6%(20歳以上)目標値50%/国民生活基礎調査より)。検診+ワクチン接種が子宮頸がん予防の基本であること、特に性交経験が無い人のワクチン接種は効果が高いことを知って欲しいと思います。

展示内容は、子宮の機能、子宮頸がんの罹患率・死亡率のデータ、ワクチンに関する内容をパネル作成し配布用のパンフレットも設置しました。また、NPO法人子宮頸がんを考える市民の会が作成したバッチの配布やお菓子の配布なども行いました。

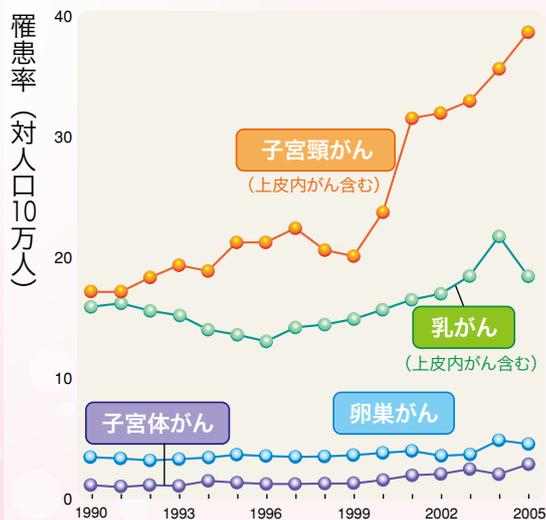
感想として、「ワクチンを接種しよう」「検診に行こうと思った」「子宮・身体って大切なんだなってあらためて思いました」等があり、今回のパネル展示の目的を果たすことができたのではないかと思います。

感想として、「ワクチンを接種しよう」「検診に行こうと思った」「子宮・身体って大切なんだなってあらためて思いました」等があり、今回のパネル展示の目的を果たすことができたのではないかと思います。

LOVE

【図1】

女性特有のがん：罹患率の推移(20~30代)



国立がん研究センターがん対策情報センター 地域がん登録 全国推計によるがん罹患データ(1975年~2005年)より作図